

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 22 日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K03295

研究課題名(和文)元国費留学生のライフストーリー研究：コンフリクト解決と生涯キャリア発達の視点から

研究課題名(英文)Life Story Study of Former Japanese Government Scholarship Students:
Perspectives on Conflict Resolution and Lifelong Career Development

研究代表者

井上 孝代(Inoue, Takayo)

明治学院大学・国際平和研究所・名誉教授

研究者番号：30242225

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：前半は、元国費留学生のインタビューを女性3人に対してオンラインと対面で行った。その一部を(1)『応用心理学研究』2020年12月執筆(2)『人生100年時代のポジティブ・エイジング：生涯キャリア発達とピアメディエーションの視点より』井上孝代『季刊 キャリア・カウンセリング研究』112, 21-28, 2021(3)『ある元国費留学生のライフストーリー研究：コンフリクト解決と生涯キャリア発達の視点から』井上 孝代, いたう たけひこ『マクロ・カウンセリング研究』として発表した。
後半は、手記に基づいた精神障害当事者のライフストーリーを対話による単行本を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は女性のライフストーリーを国費留学生のインタビューと著書のテキストマイニングにより、またある障害者との共感的対話により具体的にあらわにしたことである。
本研究の社会的意義は(1)女性のライフストーリーをとらえて日本国による国費留学生の成長の姿を明らかにし、その効果を確認した、(2)発達障害児をもつ精神障害者との共感的対話により具体的な生き方を明らかにし、当事者の語り和社会に発信したことである。

研究成果の概要(英文)： The first half consisted of conducting interviews with three female former government-sponsored foreign exchange students both online and in-person. Portions of these interviews were presented as follows: (1) In an article titled "Research in Applied Psychology," written in December 2020, (2) In the paper "Positive Aging in the Age of 100 Years: From the Perspective of Lifelong Career Development and Peer Mediation" by Takayo Inoue, published in the Quarterly Journal of Career Counseling Research, 112, 21-28, 2021, and (3) In the paper "A Study of the Life Story of a Former Government-Sponsored Foreign Exchange Student: From the Perspectives of Conflict Resolution and Lifelong Career Development" by Takayo Inoue and Takehiko Ito, published in Macro Counseling Research, 13, 21-34, 2020.

The second half involved creating a monograph through dialogue based on the life stories of individuals with mental disorders, as documented in their memoirs.

研究分野：カウンセリング心理学

キーワード：ライフストーリー 国費留学生 統合失調症 ナラティブ 協働

1. 研究開始当初の背景

自分の文化と相手の文化の相互を尊重することが異文化適応の重要な視点であるとされている。このような観点で実施された、谷・井上(1995)「国費学部留学生に関する調査報告」によれば、卒業生・修了生の多くが留学をポジティブに振り返っており、日本語についても習得したことのメリットを述べ、さらに留学が自分のキャリアにとって役立っているという回答の多さが示された。ただし、これは20年以上前の調査であり、留学生施策が「10万人計画」(1983年)など留学生大衆化の動きを経て、近年では様々な個人的ニーズを満たす留学生の受け入れ体制が求められるようになってきたと指摘されている。ニーズの変化に応じた留学の意義・効果の検証については、量的な統計だけでなく、留学生の留学前・留学中・留学後を通じたライフストーリーをインタビューすることで、各自の人生における留学の意義を生涯キャリア発達の視点から捉えることが必要であると考えられる。

海外で活躍する国費留学経験者の予備調査(ライフストーリー・インタビュー)をおこなったところ、彼らが国費留学生であるという立場ならではの留学生活に伴う様々なコンフリクト、時にトラウマにも似た体験を克服するなかでPTG(Posttraumatic Growth: 心的外傷後成長)を経験したり、各自のやり方でコンフリクトを解決しながら、むしろそのコンフリクトを体験したことでその後の人生のキャリア形成がなされた経緯があり、現在もなおそのような留学の影響が大きいということが示された。この点から、本研究は元国費留学生のライフストーリー研究のポイントとして「コンフリクト解決」と「生涯キャリア発達」の視点から、留学の生涯発達心理学的な意義について検討することを目的とする。

2. 研究の目的

- (1)元国費留学生のライフストーリーをコンフリクト解決と生涯キャリア発達の視点から、面接調査と体験記のテキストマイニングにより明らかにする。
- (2)ある精神障害者のライフストーリーを自伝とカウンセリング面接による共感的対話により明らかにする。

3. 研究の方法

2020年度

元国費留学生のライフストーリーをコンフリクト解決と生涯キャリア発達の視点から明らかにするために、インタビューによる個別調査を行ってきた。5人の面接を行ってきた。ただし、新型コロナウイルスの影響で対面のインタビューによるデータ収集が不可能になった。代替として遠隔によるインタビューに切り替えた。

本年度は2つの論文が出版された。井上・いとう(2020)は、元国費外国人留学生のライフストーリーについて、留学生カウンセラーとしての研究・実践から得られた知見に基づく「コンフリクト解決」と「生涯キャリア発達」の視点から追跡インタビューし、混合研究法により量的・質的に包括的な分析を行い留学の意義を検討した。時代背景や社会環境と深く連動しあう留学のキャリア発達の意義を個人の人生の長いスパンから検証することで、今後の国費留学生施策とその発達支援のあり方に活かすことを目指すものである。本論文では、中国からの元国費留学生の女性の事例を報告した。また井上(2021)では、本研究のテーマである生涯キャリア発達とコンフリクト解決について、ピアメディエーションとの関連から考察を深めた。

2021年度

アジア諸国からの元国費留学生のライフストーリーをコンフリクト解決と生涯キャリア発達の視点からインタビューにより個別調査を行った。その成果を井上(2021)として報告した。

東南アジアの元国費留学生(女性)のライフストーリー研究から、日本社会のジェンダーの意識変容が標榜されながらも、現実には女性がキャリアを形成していくには、女性ならではのコンフリクトに遭遇すること、そして一方では女性自身がその共感性の高さにより、「自分自身を生き抜く」ことを自制しがちな心理的側面もあるのではないかと検討した。

2022年度

引き続き、アジア諸国から元国費留学生のライフストーリーをコンフリクト解決と生涯キャリア発達の視点からインタビューにより個別調査を行った。東南アジアの元国費留学生(女性)のライフストーリー研究からは、日本社会のジェンダーの意識変容が標榜されながらも、現実には女性がキャリアを形成していくには女性ならではのコンフリクトに遭遇すること、そして一方では女性自身がその共感性の高さにより、「自分自身を生き抜く」ことを自制しがちな心理的側面もあるのではないかと検討した。

また元国費留学生の留学体験記が出版されているので、その著書の内容をテキストマイニング分析により、留学経験の具体的な体験とその後の人生への影響についての検討を行った。祖国の政変による

家族の困難を乗り越えてたくましく日本で生きる姿とその後の2国間の交流活動のつながりを明らかにした。

2023年度

今年度は、以上の成果をふまえ、方法的には対話によるナラティブの生成、内容的には越境というテーマを踏まえ、ある精神障害者の自伝をもとに本人の成長を援助する活動を通して、『重度自閉症児と共に生きる精神障害者のライフストーリー：自伝に基づく協働のナラティブ』を2024年2月に刊行した。

4. 研究成果

2020年度

井上孝代(2020) 自分らしくキャリアをデザインすること：「幸福な生き方」と「文化の架け橋」 応用心理学研究, 43, 278-283.

井上孝代・いとうたけひこ (2020) ある元国費留学生のライフストーリー研究：コンフリクト解決と生涯キャリア発達の視点から マクロ・カウンセリング研究, 13, 21-34.

井上孝代 (2021) 人生100年時代のポジティブ・エイジング：生涯キャリア発達とピアメディエーションの視点より 季刊 キャリア・カウンセリング研究, 112, 21-28.

2021年度

井上孝代 (2021) 元国費留学生のライフストーリー研究からの示唆～女性のコンフリクト解決と生涯キャリア発達の視点より～ 第28回多文化間精神医学会学術総会シンポジウム「ダイバーシティとインクルージョン：ジェンダーに関する意識変容を考える」

2022年度

井上孝代(2022) 在外邦人のための包括的支援ネットワークの構築～現地の「声」を活かす「ゆいぐローバルネット」の活動 マクロ・カウンセリング研究, 15, 56-74.

2023年度

井上孝代・永濱檸檬(2024) 重度自閉症児と共に生きる精神障害者のライフストーリー：自伝に基づく協働のナラティブ 風間書房 (全173ページ)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 井上孝代	4. 巻 15
2. 論文標題 在外邦人のための包括的支援ネットワークの構築 ~現地の「声」を活かす「ゆいグローバルネット」の活動~	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 マクロ・カウンセリング研究	6. 最初と最後の頁 56-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上孝代	4. 巻 112
2. 論文標題 人生100年時代のポジティブ・エイジング：生涯キャリア発達とピアメディエーションの視点より	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊 キャリア・カウンセリング研究	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井上孝代・いとうたけひこ	4. 巻 13
2. 論文標題 ある元国費留学生のライフストーリー研究：コンフリクト解決と生涯キャリア発達の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 マクロ・カウンセリング研究	6. 最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上孝代	4. 巻 43
2. 論文標題 自分らしくキャリアをデザインすること：「幸福な生き方と」と「文化の架け橋」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 応用心理学研究	6. 最初と最後の頁 278-283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 井上孝代
2. 発表標題 元国費留学生のライフストーリー研究からの示唆～女性のコンフリクト解決と生涯キャリア発達の視点より
3. 学会等名 第28回多文化間精神医学会学術総会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 井上孝代 永濱檸檬	4. 発行年 2024年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 173
3. 書名 重度自閉症児と共に生きる精神障害者のライフストーリー：自伝に基づく協働のナラティブ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Researchmap 井上孝代 https://researchmap.jp/takayoinoue Researchgate Takayo Inoue https://www.researchgate.net/profile/Takayo-Inoue いたうたけひこ研究室 https://www.itotakehiko.com/papers/ Researchmap いたうたけひこ https://researchmap.jp/itotakehikowako/ Academia.edu Takehiko Ito https://wako.academia.edu/TakehikoIto いたうたけひこ研究室 https://www.itotakehiko.com/papers/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伊藤 武彦 (Ito Takehiko) (60176344)	和光大学・現代人間学部・名誉教授 (32688)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------